

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 三崎 もか

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

一週間の南昌市派遣での経験を一言で表すなら、多角的な視点を深く考えるものであった。グローバル化の進む世界で、地球に住む一人として、日本人として、香川県民として、そして、「私」という一個人の視点から見える「世界」がどのように影響されて、どのように享受されているのか想いを巡らせることが出来た。

人の温かさに触れた茶畑での時間。たまたま立ち寄ったお店で、買ったばかりの髪飾りを髪に着けてくれた女性。その手先の繊細さと流れる時間がとても心地よくて、自分を優しく包み込んでくれる母のようなぬくもりを感じた。私は中国語も話せず、彼女も日本語を話せず、たどたどしい英単語と擬音語での会話。会話と言えるほど言葉を交わしてはいないが、言葉はなくともお互いに相手を思う気持ちと姿勢があればつながりはそこに生まれてくるということ、身を以て理解することが出来た。

教育や環境がいかに人の考え方に影響を与えるか考えさせられた友好青年会議での時間。中国の歴史的建造物や文化にまつわる発表から先進的な技術の研究発表まで多岐にわたる、プロフェSSIONALの方々のお話を聞いた貴重な機会となった。中国に留学生として来ていた多国籍の学生の経験をもとにした話は、中国に住み始めたからこそ得ることが出来た知見など、私自身、南昌市で学生時代を過ごしてみたいと思える発表ばかりであった。そんなたくさんすばらしい発表の中、私が忘れられない言葉がある。中国語から英語、そしてそれを和訳しているので多少の語弊はあるかもしれないが、「中国に関する欧米諸国の報道(Western media)は誤りばかりである」という言葉である。続けてこの方は「中国に実際足を運び、自ら経験して、中国がどのような国か理解してほしい」と仰った。私自身、中国に関する情報の九割ほどはネットやニュースによる媒体を通じた情報で得ており、そこから少なからず偏見や誤認が生まれていたと思う。そして、これは中国のみならず他国にも、身近な人たちにさえ芽生える考えなのではとさえ思った。重要なのはその偏見や誤認に気付いた時に、「私」という凝り固まった視点から、外に目を向けて、正しい情報を収集し、自分事化して考え、寄り添うこと。

今回、南昌市で多くの現地の方と話し、ご飯や陶磁器作り、パフォーマンスを通じて中国の方々の温かさに触れ、国籍や生まれ育った背景は違えど、通じ合えるということを感じた。それは、国規模で見た時は決して容易なものではないけれど、一人の同じ人間として関わる際は、想像しているほど高い壁ではないのだと感じた。願わくば、この思いがより多くの方々の心に根付き、友好親善が進んでいって欲しいと思う。そして私も、私なりにそこへ向けて貢献できるようにしていきたい。このような考えを巡らせる機会をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

ご協力ありがとうございました。9月30日(月)までに、都市交流室へ郵送又はメールでお送りください。

写真等を含めA4用紙1枚に収まるようにお願いします。

送付先 〒760-8571 高松市番町1丁目8-15 高松市観光交流課都市交流室
メール kokusai@city.takamatsu.lg.jp